

令和7年度 学校自己評価システムシート （学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校）

目指す学校像	自主自律と文武両道の校風のもと、生徒が主体的に学び挑戦し、確かな学力と人間性を育み、希望進路を切り拓く学校。
--------	--

重 点 目 標	1 志望達成率の飛躍的向上 2 教科学習の質的最適化と学力基盤の強固な形成 3 高校生活・部活動の充実（主体的参加による学習意欲の向上） 4 基本的生活習慣の確立と学習基盤の強化
---------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	9名
	生徒	*名
	事務局（教職員）	4名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価（6月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・本校生徒の素直さと勤勉さを伸長させるため充実した授業や朝ゼミ・放課後ゼミ等を実施している。上位層は国公立・難関私大を志向する一方で最上位大学への志望は若干減少している。生徒の進路意識と学習意欲を喚起し、高い進路目標への挑戦と実現を促す指導強化が課題である。	・希望進路実現への強いこだわり。 ・最後まで諦めさせない進学指導。 ・補習・講習等への参加状況。 ・スタディサプリの活用状況。 ・模擬試験・実力テストの学力推移。	・全体指導・進路ガイダンスの高度化による挑戦意識強化。 ・HRやガイダンスだけでなく、Google Classroomを基軸とした情報提供の即時共有化。 ・朝ゼミ・放課後ゼミ・各種補習・講習の継続による意欲喚起。 ・教員側の働き方改革による効率的指導体制の整備。	・上位大学志望者数の増加。 ・模試・実力テストにおける学力向上者数の拡大。 ・志望校の早期確定と継続的取り組みによる合格者数の増加。 ・ゼミへの参加等、学習継続率の向上。	・大阪大学・一橋大学など最難関大への合格が複数生まれ、最難関帯は例年並みを維持した。 ・難関私大の受験・合格は前年度をやや下回った。 ・朝ゼミ・放課後ゼミ等は学習意欲の向上にも寄与し、一定の成果が確認された。	B	・目的意識の早期形成と高い目標を持ち続ける姿勢の定着。 ・中間層・下位層の学力底上げによる志望達成率の向上。 ・生徒の高校生活充実を基軸とした、教職員の働きやすさの確保と協働的指導体制の強化。
2	・「思考力・判断力・表現力」の育成は進展しているが、特に表現力に個人差が見られ、理解度把握の精緻化が求められる。 ・学習姿勢は概ね安定しているものの、課題探究に向かう主体性のさらなる伸長が必要。 ・学習共同体としての協働的対話の質に個人差があり、相互学習を促す環境整備が課題。	・授業中の学ぶ姿勢への適切な助言・指導 ・小テスト・課題レポートによる理解度の計測 ・自学自習に向かう姿勢の形成 ・学習環境の積極的活用・学習習慣の定着	・小テストの定期実施により理解度を継続的に把握する。 ・課題レポート等の活用を通して表現力の向上を図る。 ・特別自習室・生徒ホール・Wi-Fi環境の積極活用により、集中して学習できる環境を整える。 ・授業内での思考・対話活動の強化により、思考力・判断力・表現力の深化を促す。	・自学自習の自発性の向上。 ・小テスト・レポートを通じた知識への関心の高まり。 ・学力向上の実質的成果の確認。 ・学習環境の積極的活用度（特別自習室等を継続利用し、学習習慣が定着したか）	・生徒は高い目的意識をもって授業に臨み、集中した学習姿勢が定着した。 ・表現力はなお発展途上ではあるが、課題レポート等を通じて着実に伸びつつある。 ・小テストを中心とした理解度の把握が機能し、基礎学力の底上げが明確に進展した。	B	・グループワークや対話的学習をさらに導入し表現力の向上を図る。 ・論述問題の拡充やレポート課題の工夫により思考力・表現力を一層強化する。 ・学習環境の活用促進を通じて、自学自習の質と量をさらに高め、学力基盤の強化を図る。
3	・部活動加入率は概ね高い水準を維持しているが、コロナ禍の影響により勧誘活動が十分に行えず、加入率の回復には時間を要している。 ・部活動のさらなる活性化に向け、学習との両立をより重視した運営体制の強化が求められる。	・各部活動の目標に基づく、試合・大会・発表会の成果 ・活動報告の回数と内容 ・学校行事（体育祭・文化祭・学校見学説明会等）での活動の充実度	・体験入部期間において、全校生徒への積極的な勧誘により参加機会を広げる。 ・活動内容・活動時間の工夫により部活動の魅力を高める。 ・必要に応じて、練習計画の見直しを行い、効率的な練習メニューを設定し学業との両立を図る。	・部活動参加人数の増加・退部者の減少。 ・県大会・関東大会・全国大会等への出場率の向上。 ・学校生活への主体的参加の広がりが学習意欲向上に結びついているか。	・各クラス担任は面談等を通じて、学業と部活動の両立に向けた適切な助言を行い、生徒の主体的な取り組みを支えた。 ・学校行事における生徒の主体的参加が増加し、活動が高まり、学校生活全体の活気が高まった。	A	・勧誘活動の工夫により多くの生徒が部活動に関心を持ち、参加意欲をさらに高められるようにする。 ・短時間で効果的な運営方法の確立を進め、学業と部活動の両立をより確実なものとする。
4	・基本的生活習慣は概ね確立されており、欠席・遅刻をする生徒は極めて少ない。 ・場に応じた適切な挨拶ができる生徒が多い。 ・時折、地域住民の方から苦情が寄せられることがあり、その改善が求められる。	・爽やかな挨拶の励行 ・状況判断に基づく適切な行動 ・校則・交通ルールへの遵守 ・自転車の適切・安全な乗車	・全教職員による日常的な生活指導を徹底し、生徒の生活を継続的に見守る。 ・事前指導の充実に重点を置き数少ない校則を確実に守らせる。 ・担任による温かい指導を継続し、学校生活の安定を図る。	・校内での挨拶の定着 ・校則違反者の減少 ・感謝を基盤とした人間的成長の深化（周囲への敬意や感謝を行動に表し、より成熟した学校生活を送れているか）	・挨拶が定着し、校内の雰囲気向上に寄与した。 ・一部の生徒には交通マナーに関する課題が残り、改善の余地が見られる。 ・校内での挨拶が広がり、生活面の安定が学習意欲の向上にもつながった。	B	・HR指導や学年集会等を通してマナー意識のさらなる涵養を促す。 ・交通ルール改正を踏まえ、特に自転車通学における、法規遵守の徹底・強化をしていく。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和8年6月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等
近年の進学実績に対し、質の維持・向上を望む声が数多く寄せられている。さらに年内入試（総合型・学校推薦型選抜）での早期進路決定を希望する生徒・保護者の増加に伴い、これらの入試形態に対応した手厚い指導が求められている。一方で国公立・難関私立等の一般選抜を見据えた補習や進路指導の充実を求める意見も出されている。
AIの台頭や予測困難な社会変化が進む現代において「思考力・判断力・表現力」の育成や、医療系・教員志望など高い志を持つ生徒への手厚い支援が期待されている。夜間まで利用できる特別自習室については、定期考査期だけでなく日常的な活用がさらに促されるよう、生徒の学習意欲を高める環境整備や運用の工夫を求める意見が寄せられている。
学業や部活動だけでなく、AI時代に対応できる人間力や「独自の強み」を身につけさせる指導への期待が強く寄せられている。また、公立校で部活動が縮小傾向にある中、私立ならではの充実した部活動環境を活かし、そこで得た経験や実績を就職をはじめとする進路実現につなげてほしいという意見が出されている。
ヘルメット着用の努力義務化に伴い、モデル推進校の導入検討や警察と連携した講習会など、着用率を高める指導が期待されている。交通ルールの徹底は生徒の安全確保にとどまらず、地域から信頼される学校づくりにもつながると評価されている。

